

「シドニー便り 2. 0」(第13回)

～ 新しい州政府との対話の始まり ～

5月31日

前々回(第11回)の「シドニー便り2. 0」において、3月25日のニューサースウェールズ(NSW)州議会選挙と12年振りの労働党への政権交代、ミンズ NSW 州首相率いる新政権の発足をご紹介しました。

その後、5月9日に、州議会の開会(the first sitting)に参列しました。開会式典前はミンズ新首相やペロテー前首相が他の議員と混じり合って談笑する和やかな雰囲気でしたが、ベル州最高裁長官が総督代理(Lieutenant-Governor)として開会を宣言し、その後は厳粛な儀式が場を支配しました。

州議会開会に伴い、新しい州政権は本格的に始動します。

そんな中で、5月29日にミンズ州首相を表敬する機会に恵まれました。



表敬を申し込んでから、さほど時を置かずして面会の日にちが設定されたことをまず嬉しく感じました。

そして、個別に面会を申し込もうとしていた閣僚も一堂に参集する形で州首相表敬がアレンジされることになりました。効率的であると同時に、日本との関係について「ワンチーム」で対応する姿勢を感じとり、好ましく受け止めました。結局、プルー・カー副首相（西シドニー等も担当）、ペニー・シャープ気候変動・エネルギー・環境等担当大臣、ダニエル・ムーキー蔵相（Treasurer）、スティーブン・カンパー多文化・スポーツ等担当大臣、アナラック・チャンシヴオン産業・貿易等担当大臣が同席しました。ちなみに先方は事務方も同席していたので、テーブルには州政府側が 10 名近くずらっと並び、こちらは私と立野未奈子副領事の 2 名がちょこんと座るという非対称な形でした。

表敬全体を通じて印象深かったのは、ミンズ首相の、open、friendly、frank、warm といった言葉そのものの素敵な人柄です。また、会話が進む中で首相と閣僚が自然にかつ仲良さそうに言葉を掛け合う光景も見られ、ミンズ首相のリーダーシップの下でのチームとしての一体感を印象付けられました。

私からは、州首相への就任と新政権発足への祝意を表した上で、日本と NSW 州は幅広い分野で協働（collaborate）しているとして、貿易・経済、芸術・文化、スポーツ、姉妹都市等市民間交流に言及しました。そして、州政府と日本企業・総領事館との間で継続的かつ定期的なコンサルテーションを行うことの重要性を私から説明しました。特に西シドニー開発について、日本側では官民が協力して情報交換のプラットフォームを立ち上げていることに触れつつ、日本と NSW 州との協力が具体的なプロジェクトの形で結実することへの期待を表明しました。ミンズ州首相から、日本との関係を大切に、日本企業との対話にも常にオープンであるという姿勢を伺えたことに、大いに勇気づけられました。

さらに私から、芸術・文化、スポーツなどの分野で NSW 州において多くの日本人が活動していること、姉妹都市など市民間交流も盛んであることを強調し、首相や閣僚をはじめとする州の要人が、「当地で活躍する日本人」に触れる機会があることへの期待を表明しました。総領事館の最重要任務である在留邦人・日本人コミュニティの安心・安全の確保への引き続きの協力も要請しました。

このような私からの話に対する、ミンズ首相や同席した閣僚の方々の反応は、極めて誠実で真摯であり、かつ、日本との関係において前向きなものでした。

ちなみに会話の中で、私から、今週始まる（ちょうどこの原稿を書いている日に第一戦）ラグビー・リーグの State of Origin シリーズではもちろん NSW Blues を応援する、ブルーズの勝利を信じていると申し上げた上で、ラグビー・ユニオンの Super Rugby Pacific の NSW Waratahs の主要スポンサーの一つは日本企業であることをしっかりアピールしておきました。

会談は終始和やかで友好的、生産的でした。

当地の日本企業、日本人コミュニティが、新しい州政府との間で、新しい協働、協力のダイナミズムを見出すことへの期待を十分感じさせるようなやりとりでした。

これから、ミズ首相率いる州政府と共に、日本・NSW 州関係の更なる発展という共通の目的に向けて、共に取り組んでいきたいとの思いを新たにしました。この日の会談は、この共通の目標に向けての重要な一歩になったと思います。



(以上)